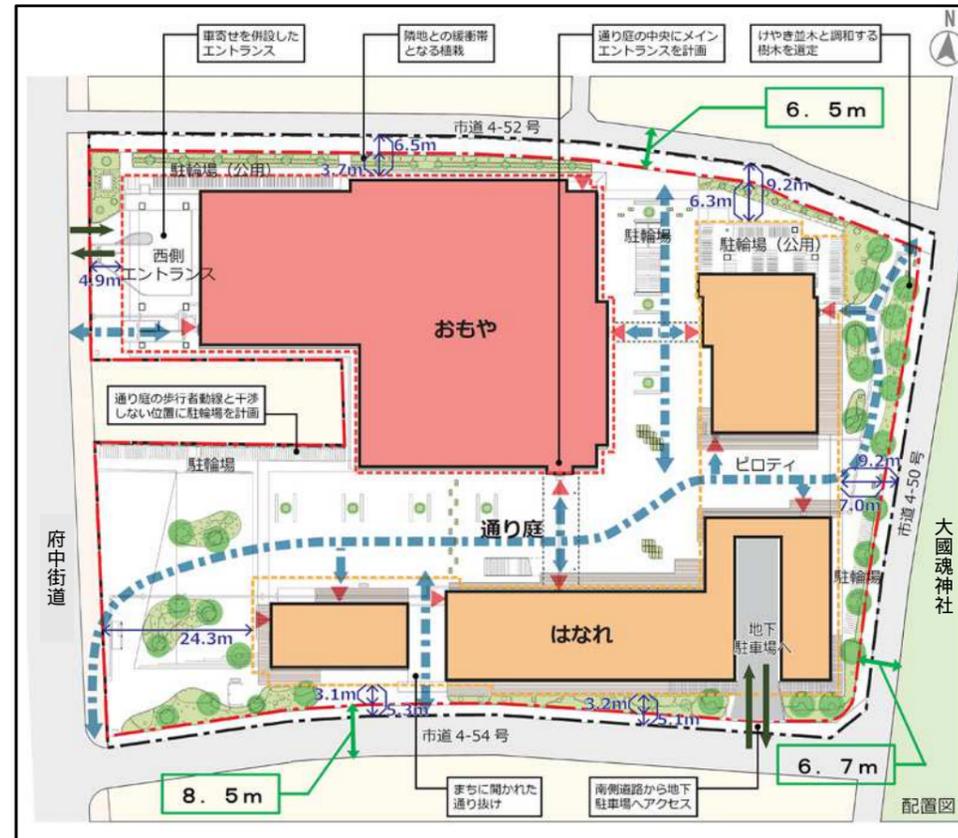


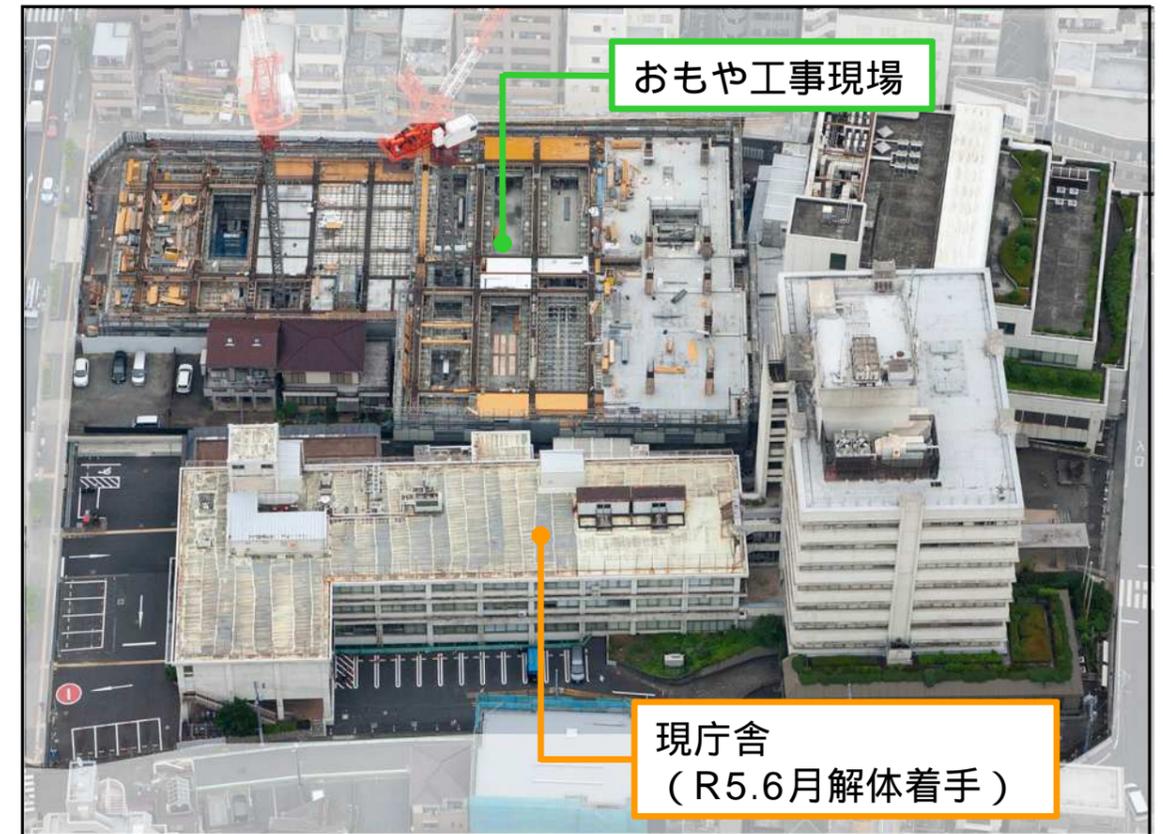
【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

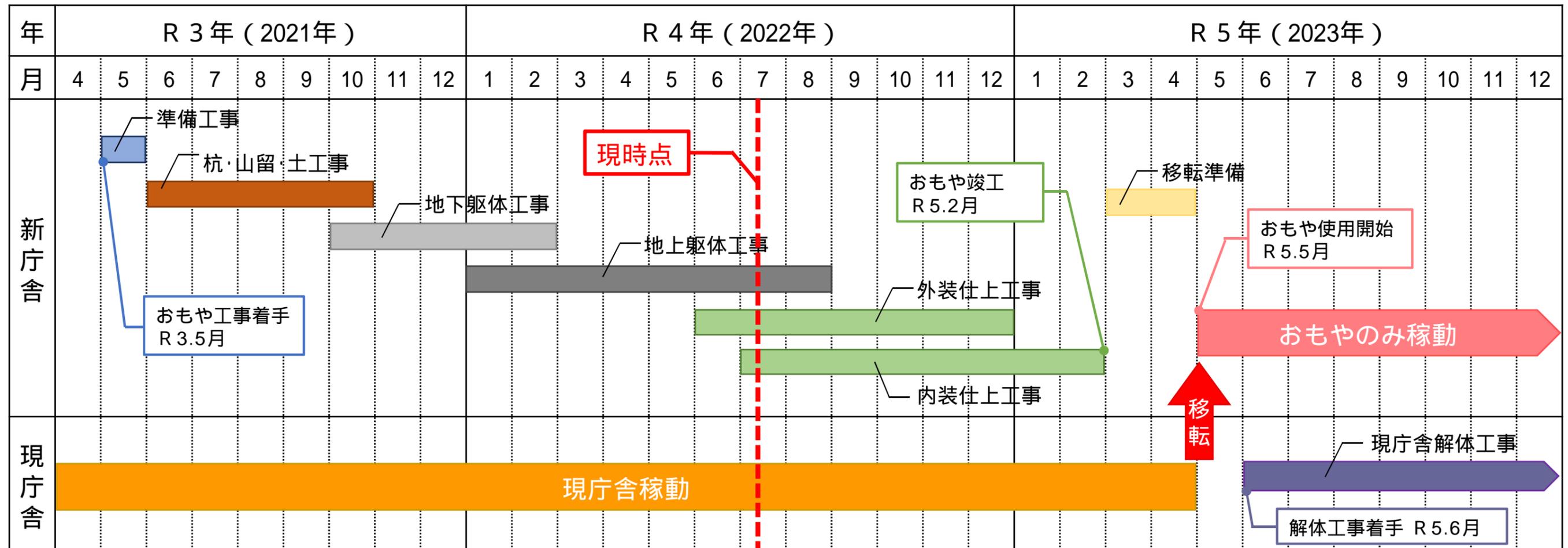
【配置計画】



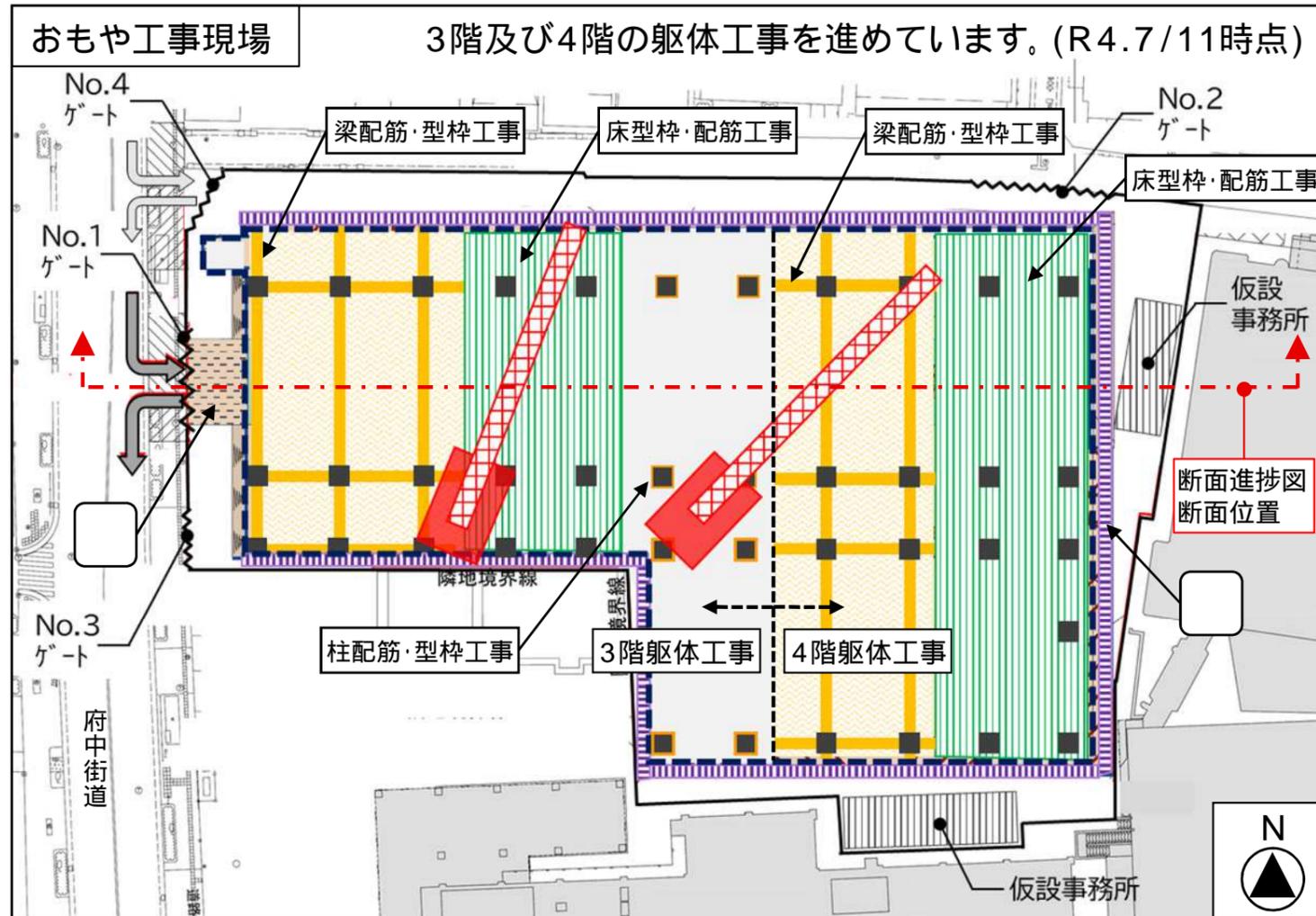
【航空写真 (R4.6月18日時点)】



【工程表】



【平面進捗図】



💡 作業着の紹介:空調服



- ・夏季における建設現場では、熱中症対策として、「空調服」を着用することが効果的です。
- ・涼しく快適に作業をすることができるように、服に埋め込まれた「小型ファン」で、服の中に大量の風を送り込み、着用者の身体温度を下げています。

💡 職長会の紹介:清掃活動



- ・「職長会」とは、工事現場における職長（各職種のリーダー）同士の集まりです。工事現場内の防火・安全対策や、施設環境の向上を図るために、日々活動しています。
- ・職長会の活動の一環として、地域の環境美化を図るため、工事現場周辺の清掃活動を実施しています。

防音パネル設置(外部足場組立工事)



- ・工事により発生する作業音の低減を図るため、外部足場の設置に合わせて、「防音パネル」の取り付けを進めています。パネルの面材は、アルミ積層材で、防音性だけでなく、防錆、防火、軽量化に優れた素材となっています。

オイルタンク設置(切梁・掘削工事)



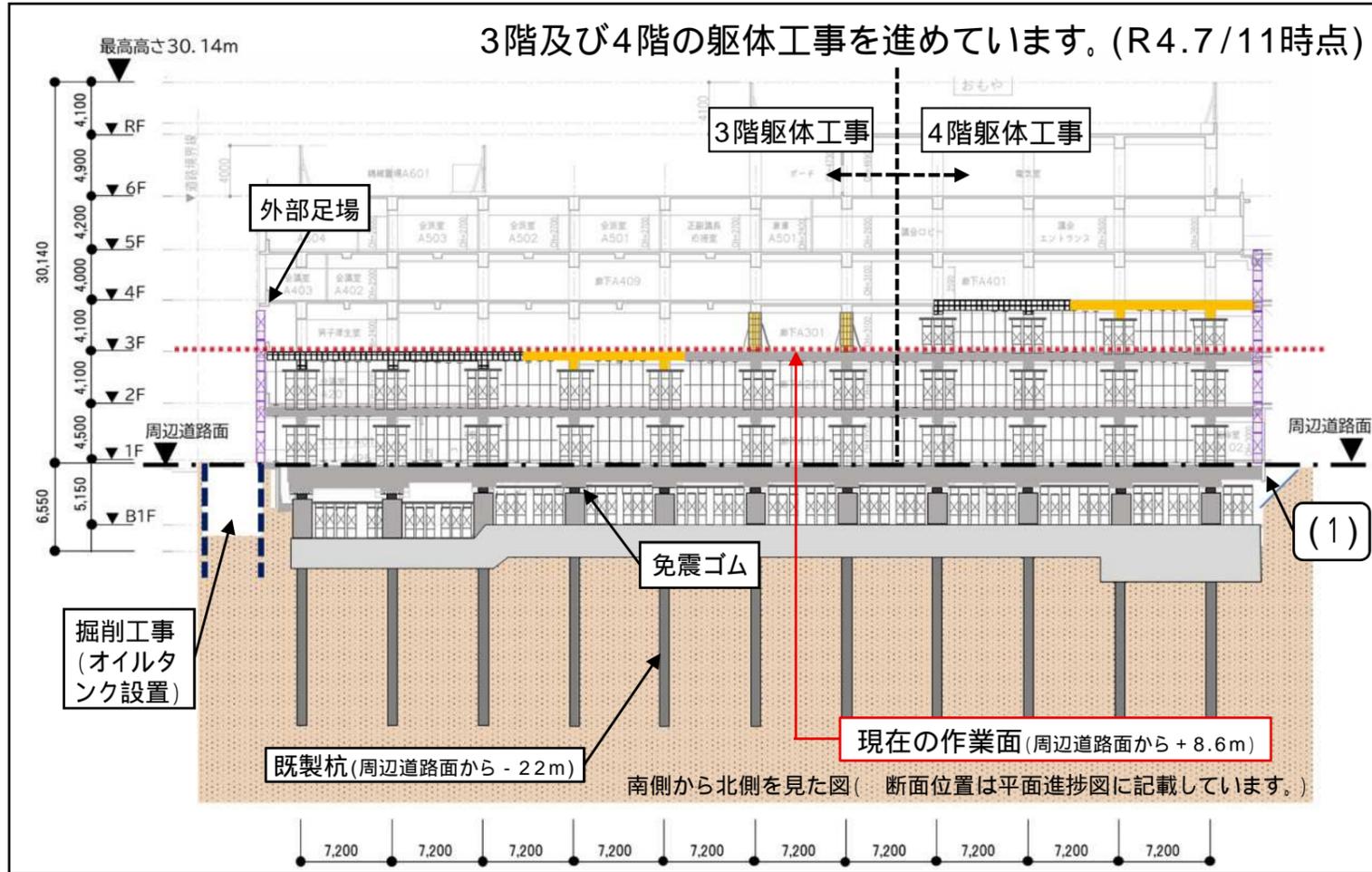
- ・非常用発電機の「オイルタンク」を地下に設置するため、府中街道の付近で、掘削工事を進めています。地上から約6mまで掘削するため、鉄骨材による切梁を設置し、周辺地盤の崩れを防いでいます。

💡 工具の紹介:検電器(まず検電！命を守る検電器！)



- ・「検電器」とは、コンセントや電線に電気が流れているかを確認するための器具です。電気の流れているものに近づけると音が鳴る仕組みです。
- ・工事現場では、電気が流れている電線と流れていない電線が複雑に混在します。電気が流れている電線を切ると感電してしまうため、検電による確認作業はとても重要です。

【断面進捗図】



製品検査: 免震装置

- ・「製品検査」とは、「製品の品質を検査するための工程」で、「外観検査」と「性能検査」の大きく2つの側面から、製品の品質・性能が十分であるかの確認を行います。「外観検査」は、部材の寸法やキズ・汚れ等外観不良がないかを確認し、「性能検査」は、製品が仕様通りの機能を発揮するかを試験機等で確認します。
- ・本工事の免震装置は、大地震時に建物の揺れを低減する役割があり、建物の構造上、非常に重要な役割を担っています。そのため、市、設計監理者、工事施工者の3者が製造工場において、厳正に検査を実施しています。

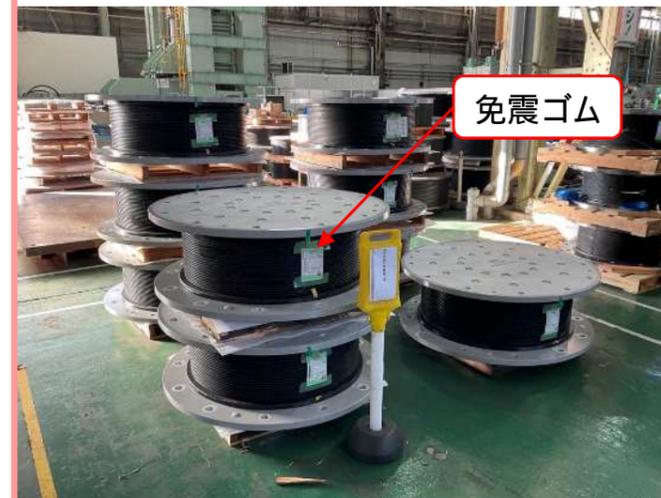
オイルダンパー：製造工場 三重県津市 今後地下1階に設置



オイルダンパー

- ・「オイルダンパー」とは、筒の中に粘性度の高いオイルとピストンが入っており、地震時のエネルギーを筒内で吸収することで地震の揺れを低減する装置です。
- ・性能検査では、試験機にオイルダンパーを設置し、規定の周波数や速度の振動を与えて、振動を減衰する力が許容値を満たしているかを確認します。

免震ゴム：製造工場 神奈川県相模原市 地下1階に設置済



免震ゴム

- ・「免震ゴム」とは、薄いゴムと鉄板を交互に重ね合わせたもので、建物を支えると共に、地震時には水平方向に大きく変形し、地震の揺れを抑える役割を果たします。
- ・性能検査では、試験機に設置した免震ゴムに、鉛直方向と水平方向のそれぞれに荷重を加えて、変位が許容値内に収まっているかを確認します。

(1) プレストレスト梁緊張工事



油圧ジャッキ

- ・プレストレスト鋼材を設置した梁は、コンクリート打設完了後、必要な期間を経てから「油圧ジャッキ」で緊張工事を行います。
- ・ワイヤー状の鋼材をジャッキで、一定の圧力を加えて引っ張ります。ワイヤー部には、定着金物を設置し、緊張状態のワイヤーを固定して、梁の強度を確保します。

工場実験: 床吹出空調設備



床吹出口

- ・新庁舎の廊下や執務室等では、床から空調用の空気を吹き出すこと(床吹出空調設備)により、室内の温湿度環境を調整します。予め工場にて実験を行い、煙を焚いて吹出す気流の流れを目視や計器で確認し、空調空気が最適に吹き出すように調整しています。